

2018年 相談援助職スキルアップ講座のご案内

「I部 家族の課題に対する基本的理解と相談援助面接スキルの向上」

2018年1月20日(土) 14:00~17:00

「II部 困難事例を紐解くグループスーパービジョンを通して」

2018年3月3日(土) 9:30~12:30 又は 14:00~17:00

講師 吉浦 輪先生(東洋大学ライフデザイン学部教授)

参加費 各回 NPO会員 4,200円 卒業生 4,600円 一般 5,000円

I部、II部通して 会員 8,000円 卒業生 8,500円 一般 9,000円

詳細は同封のチラシまたはホームページをご覧ください。お申し込みは事務局まで。

2016年度好評の講座につき、
2018年 開催決定!
お申し込みはお早めに!

書籍あっせんのご案内

ご紹介しました書籍を著者割引価格にてご提供いたします。

「家族に介護が必要な人がいます」1,400円→1,100円 送料1冊82円

「認知症を生き抜いた母」1,600円→1,300円 ご希望の方は事務局までご連絡下さい。



ご寄付のお礼 皆様のご支援により支えられています。

2016年12月~2017年7月にご寄付いただいた皆様(敬称略・順不同)

青柳育子・蛸原まゆみ・岡澤和枝・西原美香子・中村道子・加藤さく子・渡辺美智子・
林伸子・秦雅子・新田和子・笹尾正乃 感謝をもってご報告申し上げます。

特定非営利活動法人東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター入会のご案内

会員数 89(正会員73 団体会員6 賛助会員10) 2017年7月1日現在

~会員になって、東京YWCAヒューマンサービスサポートセンターを支えてください。~

会員特典: NPO主催の講習会費の割引、講師派遣研修費の割引等があります。入会申し込みは事務局まで。

会費・寄付金等振込先

(年会費 正会員 3,000円/年 賛助会員 一口10,000円/年 団体会員 20,000円/年)

◆株式会社 ゆうちよ銀行 記号10170 番号 80995501

◆東京三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

口座名義

特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター 代表理事 遠藤久江

発行所 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行人: 石井須美子 編集人: 大庭 幸

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号 東京YWCA会館216号室

TEL・FAX 03-6273-7134

E-Mail: info@ywca-hssc.jp ホームページ: <http://ywca-hssc.jp/> 東京YWCA hssc で検索

2017年8月15日 夏季休暇をいただきます。

パステル画(表紙・すいか・ほおずき・富良野)宮永順子 パステル画(朝顔)寺内真由美 表紙挿絵(虹と鳥)鍋田 都



特定非営利活動法人
東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

会報



私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します



NO.14
2017年7月

福祉・介護の講習会「楽しみながら元気を取り戻す福祉レクリエーション

Juniko ~描いて実感 パステル画~

2017年度年次総会報告
2016年度事業報告
2017年度事業計画

特集 ただいま元気に活動中~~会員紹介

会員 胡桃沢良子さん 原田千恵さん

YY紹介します おすすめ本

会員交流広場 [Salon de Y Y](#)

年次総会を終えて

特定非営利活動法人東京YWCAヒューマン・サービス・センター 理事長 遠藤 久江

2017年度の総会が7月1日に開催されました。1年間の事業報告と決算を承認していただき、来る1年間の事業計画と予算を審議していただきました。

総会を持つたびによくここまで歩み続けられたと思わずにはいられません。一つの机と一つのパソコンで、石井さんが中心となって、愛恵福祉支援財団のお部屋を「ある時払いの催促なし」でお借りしてNPOを立ち上げる準備をしたのが、2010年の4月でした。

1年後には無事NPOの認可を受けて、東京YWCA会館の一画をお借りして事務所を開所することができました。以来財政的には綱渡りの連続ですが、講師派遣事業が順調に推移しており、それに伴う業務の流れも落ち着いてきて、安定的な運営ができています。

長年懸案になっていました東京都第三者評価事業を再開するかどうかについては、昨年度の総会でこれまでの経緯を踏まえて、理事会に一任されておりましたので、理事会でも議論をし、評価事業の質を担保するための事務体制と、財政的な収益率を勘案し、中止することを提案し、「東京都第三者評価事業」を削除する定款変更を決めていただきました。これまで、多くの卒業生のご協力を得て評価者となっていただき、NPO初期の財政的な収益を保障できたことはそれなりに意味があったと思いますが、講師派遣事業の伸びとの兼ね合いで継続は困難と判断いたしました。これまでご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

役員の変更もありました。NPO発足以来監事を担っていただきました、高島佳子さん（東京YWCAのスタッフ）から辞任のお申し出があり、近藤真里子さん（東京YWCAスタッフ）にご就任いただきました。高島さんは専門学校時代の事務の責任者であり、NPOのこれまでの経緯をよくご存知でしたので、様々な面で歩みをお支えいただき、温かく見守っていただきました。心より感謝申し上げます。



◆◆◆2016年度事業報告（2016年4月1日から2017年3月31日）◆◆◆

1、講師派遣事業

2016年度は、講師派遣研修が順調に伸び、継続研修10カ所・単発研修15カ所と過去最大の収益となり、経営安定が計れた。その理由は、継続して契約に繋がったことと、新規の契約が増えたことであった。

継続研修を3年～5年間続けている法人は7箇所である。研修内容は、階層別研修（施設長（管理職）研修2法人・主任研修4法人・中堅職員研修3法人・新人研修2法人）テーマ別研修4法人である。このうち助成金（キャリア形成促進助成金）を受け実施している法人は、2箇所である。

単発研修（1～2回）も多く、3事業所と2団体であった。単発研修の内容は、接遇研修4事業所、マネジメント研修とコミュニケーション研修が各2事業所であった。その他に、認知症の理解と支援、仕事の基本と倫理、介護保険の仕組みと訪問サービスの役割、地域住民が支え合う在宅サービス、発達障害の理解と支援、高齢分野、障がい分野、子ども分野にわたった。

研修の質の向上を図るうえでの3つの取り組み

1) 研修プログラムの開発と充実
新たな研修プログラムとして、施設長、管理職研修、相談援助職研修、児童養護施設の職員全体研修、マネジメント研修を実施した。特に、施設長・管理職研修では、法人理事長がコーディネートを担当。研修ニーズを明確にし、対象となる職員の傾向や課題に合わせて研修内容や方法を検討し計画を作成、実施したことで、新たな研修プログラムを開発できた。

2016年度契約講師数は31名、うち、今年度新規に契約を結んだものは12名。それぞれの専門性を発揮し、質の高い研修を実施することが出来たことで、事業所研修担当者及び、受講者の研修に対する満足度が高かった。

認知症のかたも多いのですが、一見するとわからないため家族が大変苦労していることが送迎時に伺えます。私が高齢者介護の仕事において大切にしていることは、利用者本人の思いを尊重することです。言葉や表情を通して、まず思いを受け止め出来るだけ希望に沿うように援助しています。

もうひとつ、在宅高齢者の介護は家族支援でもあるので家族の思いを知ることも大切です。認知症のかたの思いを汲み取るのは難しいことも多いですが、今までの経験を交えながら、同僚の職員や利用者家族と連携して支援を行っています。

2. ヒューマン・サービス・センターに期待すること

高齢者だけでなく、障がい者や児童福祉について沢山のノウハウと人脈を持っていますので、現場の職員の支援や教育（介護技術だけでなくチームケアの方法など）について更に活動の場を広げていただけたら、と考えています。

3. 会員に向けて伝えたいこと

超高齢化社会において認知症を主とした高齢者介護の現場は本当に人手不足です。そのなかでも職員は良い介護をしようと頑張っていますが、慣れない業務への不安や人間関係、賃金や休日についての不満で辞めていくのが現状です。職員に対するケアや教育が足りない現状をどう改善していったら良いのか、と考えます。もっと職員が余裕を持って仕事が出来る環境改善が必要ではないでしょうか。

原田さんはこんな人♥♥♥原田さんは、30代半ばで一大決心をされてYWCA専門学校に入学。持ち前の行動力とリーダーシップを発揮し、若い同級生から頼りにされ、知恵袋的な存在であったと覚えています。常に目標に向かい、チャレンジする姿勢は、学生の頃から変わりません。4年前に社会福祉事業大学の通信教育を受講し、猛勉強の末、社会福祉士国家試験に一発合格を果たしたことは、記憶に新しいことです。「私に出来ることがあれば、協力します」との言葉に、励まされています。（会員 石井須美子）

◆◆◆会員交流広場◆◆◆ さろんどワイワイ Salon de Y Y

2017年7月1日、会員親睦会がおこなわれました。

2017年7月1日（土）14時より東京YWCA会館B11室にて、年次総会が開催されました。その後同室にて16時より、会員親睦会が行なわれました。

東京YWCA専門学校時代の先生方では、遠藤久江先生、新田和子先生、土岐祥子先生、蛭原まゆみ先生、石井須美子先生が参加。卒業生会員の方が6名、他会員の方が5名の参加でした。

軽食を囲んで和やかに近況を報告したり、悩みを話したり、いくつかのグループで盛り上がり、話が弾みました。

年次総会の日には、当NPO会員の皆さまが最も多く集う機会でもあります。今後とも総会、親睦会にお運びいただければ幸いです。もちろん普段の日も、お近くにお越しの時は事務室にお立ち寄りください。お待ちしております。

事業方針

2017年度も引き続き、東京、神奈川、千葉、埼玉の高齢者施設及び障がい者施設を主な対象とし、福祉介護事業所等の人材育成に取り組む事業を展開する。

当法人の研修事業は研修先の意図と目的を尊重した研修計画を立て、双方向で進めていくという独自性の研修活動を行っている。

今年度は、この独自性を活かした取り組みをさらに前進させるために、講師派遣研修の実施と成果を事業所と共に確認して、講師派遣研修の課題と成果を検証する取り組みを強化する。

また、講座・講習事業では、研修を実施している他事業所においてあまり扱わないテーマを取り上げ、福祉・介護の専門性を高める講習会を開催する。

発足後7年目を迎えるNPOにとっては、これからも継続した活動を進めるため経営の安定を図り、運営の組織基盤の充実に尽力する。

1. 講師派遣事業

研修事業の充実を図るうえでの3つの取り組み

1) 講師・事業所との連携を強化し、研修成果を高める。

①事業所・講師との打ち合わせ会

- ・前年度の研修評価：研修内容・参加者状況・研修成果について
 - ・当年度の研修：ねらい、研修計画・事業所研修担当者の要望を確認
- 上記の共通理解を図り、協同体制を整える。

②研修時、後のフォロー及び研修成果の検証

- ・研修参加態度、欠席状況、課題の取り組み状況、振り返りシートの内容など気になる場合には、研修担当者、所属上司と連携を図り、継続して見守り、必要時対応する。
- ・研修の成果が確認できる仕組みを作り取り組む。

2) 研修プログラムの開発と充実

- ①今年度から新規に講師に加わった2人の臨床心理士の専門分野の研修を計画。
- ②これまでの研修成果をまとめ、プログラム開発に活かす。

3) コーディネーターの育成及び講師の発掘育成

- ①コーディネーターの働きを検証し、コーディネート機能を向上させ、コーディネーターを育成していく。
- ②講師との連携の強化を図ると同時に、講師の発掘と講師の育成を進める。

2. 講座・講習

福祉・介護の専門性の高い内容の講座・講習をめざす。昨年に引き続き2回実施予定。

「2018年 相談援助職スキルアップ講座」講師 吉浦 輪氏（東洋大学教授）

3. 会員活動

- 1) 親睦会の開催：会員及び講習会参加者を含めて親睦会を開催。
- 2) 会員証の有効利用
- 3) 卒業生・同窓会との協同を検討する。

4. 広報

- 1) 新たな契約に繋げるため、独自の研修プログラムの周知に力を入れる。
- 2) ホームページの有効利用・講習会チラシの配布と掲載
- 3) 会報の発行 7月（第14号） 12月（第15号）各200部発行予定

5. 組織運営

| | | | |
|--------|---------|--------|-------|
| 総会の開催 | 年1回 | 理事会の開催 | 年3回 |
| 事務局の体制 | 事務局長 専任 | 事務員 | 非常勤2名 |
| | | 事務局会議 | 毎週月曜日 |

「楽しみながら元気を取り戻す 福祉レクリエーション～描いて実感 パステル画～」

講師 宮永 順子氏 蛸原 まゆみ氏

2017年3月4日、千代田区高齢者サポートセンターかがやきプラザ4階において、第5回福祉・介護の講習会が行なわれました。

会員、専門学校卒業生、福祉職の方合わせて10名が参加。前半は蛸原講師による、「福祉レクリエーション」の講義。生活を楽しく、明るくするための活動であるレクリエーションの基礎知識を共有しました。続いて宮永講師によるパステル画指導。受講者一人ひとりが、丁寧に指導を受けました。パステルの優しい色をぬっていくうち、受講生のみなさん、すっかりリラックス、笑顔で作品を仕上げました。



和やかな雰囲気での講習会



楽しみを味わいながら、少し手を添えてもらって



オンラインワンの作品がそろいました

受講者の皆さんからは
「講習会の雰囲気がとてもよかった。」
「癒された。参加して良かった。」
「家に帰ってまた描きたい。」
等の感想が寄せられました。

わいわい ◆◆◆YY紹介します おすすめの本 ◆◆◆

「家族に介護が必要な人がいます～親の入院・介護のときに開く本～」

著者 西岡 修 監修 吉野横一 朝日新聞出版 1400円+税

突然始まる親の入院、介護生活にどのような課題が待ちうけているか。直面する具体的な課題をどのように捉え、対処すればよいか、当事者の立場から分かりやすく解説しています。1章「親が倒れて入院した。その時どうする」 2章「退院後、より良い介護を始めるために」 3章「いま問題の介護難民にならないための工夫」 4章「大切な家族を『看取る』には、ケアと心がまえ」という章立てになっており、想定される課題を読み進めるうちに、解決に必要な知識と考え方を学ぶことができます。文中の{ホーム長のAdvice}は必見です。



当NPO理事 西岡修氏の本です



白十字ホームで最期を過ごされた利用者、ご家族の本です

「認知症を生き抜いた母～極微の発達への旅～」

著者 安岡英美子 出版社 クリエイトかもがわ 1600円+税

「人間は生まれてから死ぬまで発達課題をもち、認知症になってさえ発達すると考える」ことをテーマに、娘として母の認知症発症から7年間の介護を、綿密な記録を基に時々のエピソードを織り交ぜまとめられています。「認知症」、「看取り」が注目されています。専門家による他者の視点での類書は多くみられますが、娘という家族の立場から肉親への想い、親子だからこその歴史や文化を共有した視点は貴重です。決して一つの結論ではない、迷い、困惑、喜びを肉親だからこそ表現できるように思います。家族という当事者の想いを知る上での良書です。

各々の場所で活動し、素敵に輝く会員の方々の今をご紹介します。

会員 ^{くるみざわ} 胡桃沢 ^{りょうこ} 良子さん (元東京YWCAケアサポート市ヶ谷佐土原事業所スタッフ)

～ご本人の生きる力と、自己決定を尊重する～

1. 今、大切に思うこと、そして現在の活動

早いもので、居宅ケアマネジャーを退職して丸4年が過ぎました。当時は自分なりに精一杯利用者の方に関わりました。しかし、その対応や判断の内容については、いまだに思いあぐねてしまう時があります。ご本人の生きる力と、可能な限りの自己決定を尊重する。それが対人援助職の要だと思えます。それぞれの方の生活歴は長く、その一部分に接点として関わる仕事は本当に恐れ多いことだと感じています。利用者の人生はあくまでその方のもの、自分の思い込みで関わらない、そして私人としての自分を売り込まないこと。それが私の経験で得た大切にしたいことです。



現在は地元のNPO暮らしネットえんの小規模多機能施設まどかで、週2回程ボランティアをしています。味噌汁作りや配膳後片づけ等です。一番の楽しみは職員さんや利用者さんと共に昼食を囲むことです。同じテーブルに集いながら、さりげない会話をを楽しみます。その陰で細かい配慮をされている職員さんの姿勢には教えられます。

ボランティアを受け入れるためには、しっかりした組織力が必要だと思えます。ただ受け入れるだけでなく、地域の一つの力として認め、取り込んでくださることに感謝しています。

ボランティアの一員として、自分の立場での範囲で関わる部分に責任を持って、これからも活動を続けていきたいと思えます。

NPOの魅力、それは利益や情報を様々な形で地域に還元、発信していくことだと思えます。

2. ヒューマンビズサポートセンターに期待すること

会員になって間もないです。2回ばかり講習会に参加しました。

自分の立場を再考させていただくと共に、楽しい時間を過ごせました。厳しい現場で燃え尽きてしまわないよう、希望を持ってリフレッシュできるような研修を希望します。

胡桃沢さんはこんな人♥♥♥胡桃沢さんは私のケアマネ師匠です。昔オーストラリア福祉研修で一緒に部屋になり、親しく出会いました。

ご自身が大きな心の傷や葛藤、慰めや励ましを経験されているからこそその味がどんどん出てくる方。とてもソフトな方に見えますが、過去、NPOの立ち上げに関われ、芯の強さや熱さをもっておられます。現在活動は発展して継続されています。(会員 蛸原まゆみ)

会員 原田 千恵さん (東京YWCA専門学校社会福祉科ケアワークコース卒)

～利用者の思いを尊重し、家族の思いを知る～

1. 現在の仕事で大切にしていること

私は東京YWCA専門学校ケアワークコース卒業後、介護福祉士として特養、訪問介護事業所で10年程働きました。他にも高齢者住宅の相談業務、社協で地域福祉に関わるボランティア調整や相談業務に従事していました。

現在はデイサービスで介護全般と送迎業務にパート社員として従事しています。要支援や要介護1の利用者が多いので、介助することは少なく皆で楽しい時間を過ごすことを心掛けています。



2) コーディネート機能の向上

理事長がコーディネーターとして加わったことで、2015年度3名であった体制が、2016年度4名となり、講師との連携、法人・事業所研修担当者との連携がより深まった。

受講者に対する研修後のフォローが効果的に進められた。事業所研修担当者・受講者担当スーパーバイザーとの情報共有、面接の実施等、継続して見守り、必要時対応することで、受講者一人ひとりの成長と課題を確認し、職員育成に繋がった。

3) 講師との連携の強化

講師連絡会の開催

2016年度は、事業所研修担当者に講師打合せ会への出席を依頼。2法人と4/8・5/12に実施。

講師申し送り表及び振り返りシートの活用が進んだことで、研修の継続性と研修効果が高まった。

2. 講座・講習

第4回 福祉・介護の講習会 2016年9月3日(土) 東京YWCA会館にて

「人と気持ちを通わせるために身につけたいコミュニケーションスキル」

参加者：26名 内訳：会員7・卒業生7 非会員12

第5回 福祉・介護の講習会 2017年3月4日(土) 千代田区社協 かがやきプラザにて

「楽しみながら元気を取り戻す福祉レクリエーション」～ 描いて実感 パステル画 ～

参加者：10名 内訳：会員7・卒業生2・非会員1

相談援助職・介護支援専門員向け講座 2回で身につく相談援助職スキルアップ講座 愛恵ビルにて

1回目 2017年1月14日「家族の課題に対する基本的理解と相談援助面接スキルの向上」 参加者：33名

2回目 2017年2月18日「困難事例を紐解く グループスーパービジョンを通して」 参加者：26名

3. 会員活動

1) 親睦会を実施

2016年9月3日(土) 第4回の講習会終了後、お茶会とアロマの講習会を実施。参加者：15名 会員、卒業生、会員の友人が参加。

2017年3月4日(土) 第5回の講習会后、講習会場内で親睦会を実施。参加者：10名

2) 会員証・会員のしおりを発行 会報第13号に同封

4. 広報

1) 講習会チラシの配布と掲載

東社協 平成28年度東京都高齢者福祉協議会第2回総会において、パンフレットと講習会のチラシ 250部配布

福祉広報「12月号」、ふれあいケア「12月号」に講習会のお知らせを掲載

2) ホームページ

スマートフォン対応変更、アカウント上位設定、ホームページ画面刷新

3) 会報の発行

第12号 200部 2016年7月発行

特集 ケアの実践「小規模デイサービスみんなの家」会員 奥田真美さん

第13号 200部 2016年12月発行

特集 「桃三ふれあいの家の取り組みについて」NPO理事 大井妙子さん

5. 組織運営

総会開催 2016年6月11日(土)

理事会開催 3回開催 2016年5月10日、7月25日、2017年2月6日

事務局会議 毎週月曜日

